

【取組み内容】

- ・環境負荷の高い石油化学素材から、天然素材への転換。
- ・染料はわいた温泉を使いCO2排出ゼロで製造する世界初の試み。
- ・「木糸」と「最先端技術を用いた草木染め」を通して環境負荷の低減に貢献する様々な商品提案を行なっている。



評価項目ごとの取組みの特徴・ポイント

普遍性	国土の7割を占める森林を活用すれば地域ごとの木糸が出来、地域の特産物から地域の色を作ることによって各地域ごとの持続可能な循環サイクルをつくる事が出来る。
包摂性	地域資源を活用して地域に必要な分だけを適量生産、適量消費することはアパレルだけに限らず、多くのものづくりに新たな評価軸と課題解決への道筋、創造価値を与える取り組みである。
協働性	木糸の新しい製造方法の研究は福井大学、熊本大学と弊社で 特許を目指し取り組んでいる。熊本市インターン支援制度を活用し熊本大学の4年生を雇用して試験を繰り返している。
統合性	熊本から発信する地産地消ベースのものづくりを全国に水平展開することで現代の大量生産、大量消費、破棄のモデルから脱却し、各地域ごとの適量生産、適量消費、最後は土に還す循環のモデルに移行することは生産者も消費者も、地球の環境と人々の健康を守るよう、責任ある行動をとることを実現することに繋がる。
透明性	今年の第26回木材活用コンクールにて木材の新たな可能性を感じるとの理由で、天草ヒノキを原料とした木糸で製造した「緑の少年団の試作ユニフォーム」が特別賞(木材共生賞)を受賞した。右写真下

貢献するSDGsのゴール

